

はなたて 花立遺跡現地説明会資料

令和2年11月14日（土） 加茂市教育委員会

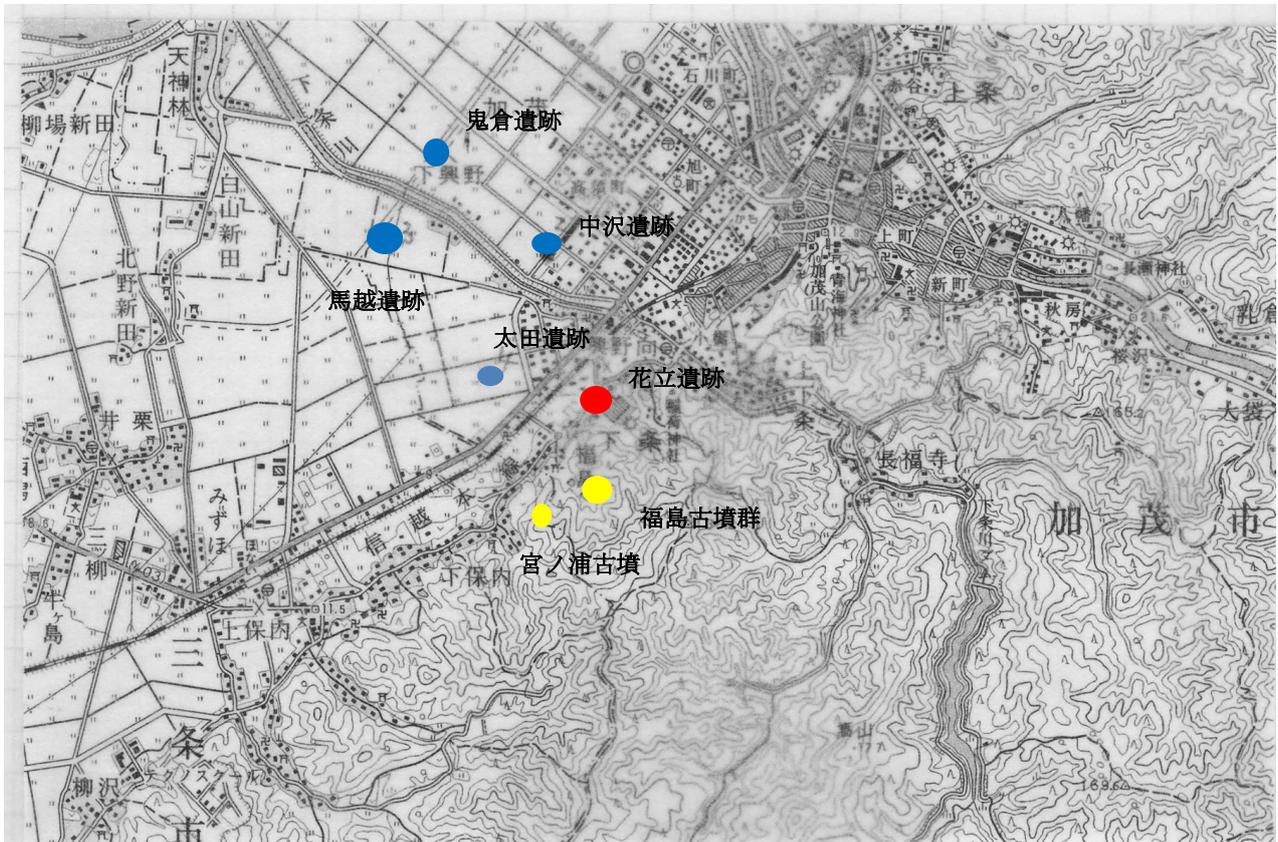
1 はじめに

花立遺跡は加茂市大字下条字福島地内に所在します。遺跡は平成5年に登録されました。加茂市道福島線建設工事に先立ち、令和元・2（2019・20）年度に行った^{かくにんちようさ}確認調査の結果、道路建設予定地内に遺跡がひろがることが明らかとなり、本年の9月終わりから、約914㎡の面積を対象とし、加茂市教育委員会が主体となり^{はっくつちようさ}発掘調査を実施しています。

2 立地と周辺の遺跡

花立遺跡は下条川左岸の丘陵縁辺部に位置し、緩やかな傾斜を持つ^{びこうち}微高地に立地します。現在の水田面の標高は約13m前後です。

下条川流域には多くの古代の遺跡が確認されています。発掘調査された遺跡は右岸側^{おにくら}で鬼倉遺跡、中沢遺跡、左岸側では^{なかざわ}馬越遺跡、^{うまこし}太田遺跡などがあります。また、花立遺跡の後背部の丘陵には^{みやのうらこふん}宮ノ浦古墳、^{ふくじまこふんぐん}福島古墳群が所在します。



花立遺跡と周辺の遺跡位置図

3 遺構について

掘立柱建物ほったてばしらたてものが1棟見つかりました。規模は2間×3間で、平面積は約18㎡ほどです。建物の南から東側にかけて溝みぞが巡ります。主軸方位は南北を向いています。柱穴の中には、柱根ちゆうこんが残るものがあります。

河川が三本見つかっています。調査区の北側から河川1、河川2がほぼ南北方向、3が東西方向の流路となります。河川1には川底に杭を打ち込み水の勢いを調整するための柵しがらみが見られます。河川1の規模は不明ですが、河川2の幅が約5m前後、河川3の幅が約3m前後あります。ほかには溝やピットが確認されています。

4 遺物について

河川から多量の平安時代の須恵器すえき・土師器はじきが出土しています。須恵器は大半が佐渡こどもりようの小泊窯産のものです。このことから、遺跡の主な年代は9世紀代と考えられます。このほか、古墳時代前期の土師器や縄文土器が少量みられます。土器の底部や体部外面に墨書や漆書が見られ、「主」・「大」・「上」・「田口」などと読めます。

土器以外では、多様な木製品が注目されます。木簡もっかんや剣形木製品けんがたもくせいひん（長さ約54.5cm、幅4.5cm）は特に貴重です。他に齋串いぐし（祓はらいの道具）、箸状はし、曲物まげもの、皿ひしゃく、柄杓ひょうたん（瓢箪）などがあります。また、石製の紡錘車ぼうすいしゃ（糸を紡ぐ錘つむ）、土錘どすい（漁網ぎよあみに付ける錘おもり）も各1点みられました。

5 まとめ

遺構ほったてばしらたてものは掘立柱建物と河川が確認されていますが、河川が南北方向を向いていることから、建物も河川を意識して配置されたと考えられます。また、河川から見つかる墨書土器や多様な木製品からは、平安時代の祈りや儀式的姿が想像されます。木簡の解読はこれからですが、付近の開発を進めた有力者の存在がうかがわれます。

花立遺跡かんぼらくんあおみごうは古代蒲原郡青海郷の地域を開発した集落の一つで、馬越遺跡や鬼倉遺跡などの調査成果も含めて、古代社会を具体的に考える貴重な成果が得られたと考えています。

最後になりますが、今回の発掘調査並びに説明会を開催するにあたり、近隣にお住いの皆様、関係機関の方々、㈱日立ニコトランスミッション加茂事業所様から多大なご協力を頂いております。この場をお借りして感謝申し上げます。